独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 山梨支部　ポリテクセンター山梨（山梨職業能力開発促進センター）

tete

技術を手にいれる喜び



POLYTECH
第13号
2025 June
MAGAZINE

地方の活力

人材・企業・風土・歴史

縮小する山梨県の市場
人材確保・人材育成が地域の将来を担う

山梨らしさとは
山梨県に暮らす喜びを感じて生きる

個性ある地方へ
Make You Happy

株式会社 東亜利根ボーリング
他の追随を許さない唯一無二の技術力

コミヤマエレクトロン 株式会社
未来への挑戦
最先端のテクノロジーで 豊かな社会を創造

株式会社 三工社
創意あるものづくりで、
人に優しく安全な 社会の形成に貢献

COLUMN
産地でなければ味わえない!!
株式会社 志村葡萄研究所

郡内織物を次世代に引き継ぐ
有限会社 羽田忠織物

森と暮らす、森に学ぶ
有限会社 八ヶ岳プランニング 八ヶ岳倶楽部

そうだ!! ポリテクへ行こう!!
知識と教養を深める POLY TECH Library
that's renovation

旧鈴村邸 愛妻家珈琲

FREE MAGAZINE THIRTEENTH ISSUE

teteとは　技術を手にいれる喜び（Technique×手＝喜び、笑顔、幸せ）を意味する造語。新たな知識・スキルを手に入れる喜びの言葉（音）をイメージしたタイトルです。

はみだししゃべくり ラジオ キックス FM90.9 AM765

6月12日(木) 2025年
放送

YBSラジオ「キックス」内 特別コーナー
「つながるポリテク Make You Happy」
でもご紹介します。

Make You Happy

他の追随を許さない唯一無二の技術力

株式会社 東亜利根ボーリング



経験から蓄積されたノウハウでクライアントのニーズを叶える

地方の個性を形成する〝ものづくり企業〟

地方の活性化、地方創生というワードはよく聞く言葉です。外的な刺激が必要なケースや、移住促進などで人口減少に歯止めをかける等のアクションが必要な場合もありますが、流行や都市型ビジネスの模倣などで、その地域の歴史・風土とかけ離れた取り組みが、一時的な活性化を生んだ後、より荒廃が進んだケースを、筆者は様々な過疎圏で見分しました。元々その地域が持っている魅力を見直し、その活力を持続させることが、無理のない地方社会の再構築ではないでしょうか。

漁業、農業、林業など第1次産業が歴史的に盛んな地域、また、観光、小売りなどサービス業を中心とした第3次産業が著名な地域等、特産品や産業名で直ぐイメージが浮かぶ処は数多くあります。ものづくり分野でも、地域の個性を形成するユニークな製造業や建設業が立地する地方もあり、それがその地域の個性となっているケースもあります。山梨県のGDPの大半を占める製造業にも個性的な製品を製造する企業が数多くあります。今回は、そういったいくつかの企業を紹介し、過当競争や景気動向に左右されにくい企業の存在が地方にとって如何に重要か、また、多様な職場、仕事があることが、地方の活力にどう影響するのかを考えていきたいと思います。

「ボーリング」の領域で国内唯一の技術を持つ企業

1917年の創業以来、時代のニーズに応じた数々のボーリングマシン・掘削機を先駆けて開発し続ける株式会社東亜利根ボーリング。同社が開発・製造するボーリングマシンは、再生可能エネルギー（地中熱、地熱）、建設工事関係、土壌・地下水汚染調査、温泉開発など、多様な場面で活躍しています。

「事業の柱としては2つ。昔ながらの井戸や温泉などを掘るのに用いる一般ボーリングと基礎工事に用いる都市土木用のマシンの開発・製造です。一般ボーリングの方でいえば特出しているのは、大口径・大深度という特徴。深い穴を掘ることができるものですね。そして都市土木の方でいえば、地中に連続壁をつくる工事。水平多軸という掘削方法ができるマシンを製造しているのは、国内では当社のみとなっています。甲州市にある塩山工場では、現在68名の従業員が働いており、当社の製品はもちろん、東京本社や各営業所で受注した現場に合わせた特注の機械の設計や組立などを行っています。現在は従業員の殆どが山梨県出身、特に甲州市出身が約3分の1となっているのも工場の特徴です」と製販技術本部本部長の川田聖二さんは話します。



独自の技術力とノウハウで社会の発展の基礎に貢献

「主要なボーリングメーカーは現在日本に4社。中でも、一番歴史があるのが東亜利根ボーリング」と川田さん。経験から蓄積されたノウハウがあるからこそ、クライアントの要求に柔軟に応えることができるのだと教えてくれます。

「その技術をもとに、かつては広く『ボーリングマシン』を扱っていましたが、今はボーリングの中でも分野を絞って開発・製造を行っています。また、海外にも目を向け、時代ごとの最先端技術を取り入れ、当社の技術と掛け合わせて新しいものを作ることもしています。『ソニックドリル』はその一例。昔ながらの〝回転をさせながら掘っていく〟というボーリングマシンに、振動する『バイブロ』というヘッドをつけて掘削スピードを上げたもの。『1日で100メートル』というキャッチコピーで、掘削スピードの速さを売りにしたプロダクトです」と製販技術本部生産管理部武井正宏部長。同製品は、スカイツリーや公共の施設など、地中熱の利用を考えた建物の建設時にリクエストを受けることがほとんどなのだそう。

近年、業績が上向きになる中、採用にも注力したいという同社。「まだまだきっと、塩山にこんなものを作っている企業があることを知らない方も多いと思うんです。それに、ボーリングと聞いて、その機械（マシン）をつくるという仕事をイメージできる人もきっと多くないし、マシンで行う作業は地面の下のことなので目には見えません。僕らが手掛けるマシンは、建物がつくられるときや都市開発が始まるその前に現地に行って、地質を調査するもの。目にみえる何かが残るわけではないのですが、土木でも建築でも基礎は一番重要なところだと自負しています。地質がわからないと建物を建てられないし、工事もできない。だから、基本的に無くならず、必要とされている仕事でもあると思う。まずは知って、興味を持ってもらえたら嬉しいですね」（川田さん）



製販技術本部 生産管理部 部長
武井 正宏さん



製販技術本部 本部長
川田 聖二さん











株式会社 東亜利根ボーリング

所 在 地：本　　社　東京都港区六本木7丁目3番7号
TEL.03-5775-3321
塩山工場　山梨県甲州市塩山三日市場1900番地1
TEL.0553-20-2600
事業内容：ボーリング用機械および付属品
特殊土木建設用機械および付属品　製造販売他

Make You Happy

はみだし しゃべくり ラジオ キックス FM90.9 AM765

6月19日 2025年(木)

放送

YBSラジオ「キックス」内 特別コーナー
「つながるポリテク Make You Happy」
でもご紹介します。



技術を真摯に追求し、世界に貢献する企業へと成長

まじめなものづくりと、幸せを願う思いを理念として真空技術に挑む

昭和58年創業のコミヤマエレクトロンは、富士山のふもと鳴沢村に本社を置き、創業以来まじめにものづくりに取り組む社風を築き上げてきた真空技術のプロフェッショナル企業です。現在は鳴沢村の本社及び第一事業所、ジラゴンノ工場、第二事業所、テクニカルセンター、西東京事務所において医療分野、航空宇宙分野、エネルギー分野、半導体分野、加速器分野など、幅広い分野に貢献する製品の開発・製造を手掛けています。

「創業者である父、会長 渡邊明雄は高校卒業後、地元の電器店で働いておりました。在職中の1983年頃、鳴沢地区に半導体関係の工場が誘致された際に配管工事に携わる機会があり、その時に会長は『真空技術』に新しい時代の産業のチャンスを感じたのだと思います。それが当社設立のきっかけになりました」と、この日お話を聞かせてくださったのは渡邊伸悟社長です。設立以来鳴沢村に根付き、まじめなものづくりに取り組み続けてきた結果、現在は先端分野を牽引する大手企業や、権威ある研究機関等から信頼される企業へと成長し、さまざまな分野の発展に無くてはならない『真空技術』を有する企業としての地位を確立しました。その中でコミヤマエレクトロンが常に大切にしている思いがあると渡邊社長は言います。『我々は、我々の幸せのため、広く社会の発展のため、日に日に発展することに、正義と勇気と信念とを持って、誰よりも積極的に努力します』というのが当社の経営理念です。私たちは個人も、従業員とその家族も、協力会社様やお客様、地域社会、そして競合他社様も含め、すべてが幸せでなければならないと考えています。業界や地域社会を盛り上げていくための『幸せ』をしっかり考え、これを次世代に繋げていくのも私たちの務めだと思っています」



『設計技術・生産技術・真空技術』の融合と長年の経験と実績が広げる豊かな未来への可能性

「真空関連装置は一般的には日常生活で目にする機会は少ないかもしれませんが、その装置がつくり出している技術や製品は私たちの暮らしや社会のさまざまな場面で活用されています。たとえば液晶ディスプレイ、半導体素子、医療機器、自動車、航空宇宙など多岐にわたる分野に使われています。当社は高度な真空を求められる事業に参入していく中で国内の研究施設の仕事をするようになりました。研究所の先生方の新しい要求を伺い、それにチャレンジすることで技術はさらに磨かれていきました。その経験を水素燃料電池の製造装置や医療機器製造など他の産業にも活かし、技術の掛け算により時代のニーズに応える技術力を高めていきました。現在、山梨県が推進するメディカル・デバイス・コリドー構想にも参加していますが、将来的には医療分野にさらに力を入れ、成長産業である医療・宇宙・エネルギーの3つを軸にした事業戦略を考えています」と地場部長。



技術部 部長
地場 弘行さん

『設計技術・生産技術・真空技術』の融合と長年の経験と実績こそがコミヤマエレクトロンの強みであり、可能性の源です。同社の画期的な技術として注目されているもののひとつに、水を弾き何もくっ付かない性質を持つテフロンの表面を改質して銅のメッキを可能にした技術があります。「当社の技術は他にない高い密着力があるのが特徴です。また、密着させる素材によって、新たな機能を付加することができるため、この基礎技術を応用し、展開していくことにより用途の拡大が期待できます」と久保取締役。お客様のニーズに応える一品一様を大切に、お客様の絶対的パートナーとなるべく、コミヤマエレクトロンでなければできない技術を追求し続けてきた姿勢が新技術の創造に繋がっています。



代表取締役 社長
渡邊 伸悟さん



取締役 第二製造部長
久保 博義さん

私たちの仕事が未来の豊かな社会を担う

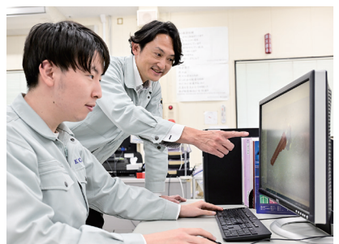
渡邊社長は山梨県中小企業家同友会・富士山支部の支部長も務めています。「『良い会社をつくろう、良い経営者になろう、良い経営環境をつくろう』という同友会の学びは、社内においても活かせると思いました。そして、良い会社員になり良い会社をつくり、良い職場環境をつくるために横の連携を図る取り組みを始めたのです。それが『ダッドアクション委員会』です」と渡邊社長。

自分たちが働きたい、明日も出社したい、大切な人に紹介したい会社にするためにはどうすればいいかを各部署から選出された社員と社長が一緒に話し合う場として設けられた委員会では毎回社員側から積極的な提案があるといいます。

さらに「社員研修をやりたい、他部署のことをもっと知りたい、会社の歴史など、会社のことを学びたいなど、自分たちの会社をもっと知り、もっと良くしていきたいという熱意を毎回感じています。自社を良くして社員を良くする事は結果として地域貢献にも繋がると考えるコミヤマエレクトロンでは、地元企業等と協力して『夢気球プロジェクト』を開催し、私たちの地域にはこんなに素晴らしい環境資源があることなどを地元の子どもたちに伝える活動もしています。私たちの仕事は人々の豊かな暮らしや便利な社会に繋がっている尊い仕事です。そして宇宙にも繋がっているなど、無限のチャンスがある仕事です。入社後の教育環境も整えていますので、ワクワク感を持って入社して欲しいです」と渡邊社長。創業以来、利他の心と誠実にものづくりに向き合う心を育み続けてきたコミヤマエレクトロンは今、最高のワクワクをカタチにしながら世界に貢献できる企業として未来に向かっています。









コミヤマエレクトロン株式会社

所 在 地：本社 山梨県南都留郡鳴沢村2278　TEL.0555-85-2844(代表)
西東京事務所 東京都青梅市師岡町4-12-3 第1久保ビル3F
TEL.0428-78-3103
事業内容：真空装置の設計・製作、加速器設計・製作 他

Make You Happy

Make You Happy

未来への挑戦
最先端のテクノロジーで
豊かな社会を創造

コミヤマエレクトロン株式会社

komiyama electron
komiyamae.co.jp

Make You Happy

創意あるものづくりで、
人に優しく安全な
社会の形成に貢献

株式会社 三工社



先進の科学技術とともに歩み、安全で安心な暮らしと持続可能な社会を支える基盤を創る

私たちの優れた技術が未来の礎になる

大正15年（1926）創業の三工社。その社名は「機械工学」・「電気工学」・「化学工学」の3つのテクノロジーに由来しています。進歩し続ける科学技術の成果を常に導入し、「品質の確保・納期の厳守・価格の低廉」を社是として、創業以来、人に優しい社会を支えるためのものづくり企業として邁進してきました。東京本社、甲府事業所、甲府事業所テクノセンターの連携により、開発から生産までの一貫体制を実現し、優れた技術力のもと創意あるものづくりで未来を切り拓いています。

「当社は、鉄道省の指定工場として鉄道信号保安装置の製造と設置工事を行う企業として大正15年に創業し、1964年の東京オリンピック開催に伴い高速道路整備が進められる中で高速道路標識などの分野にも進出していきました。現在は鉄道信号保安装置を主力商品として、鉄道車両用部品、道路交通信号機、道路標識などを製造しています。またニーズに応えガス検知警報装置・計測装置等の分野にも貢献しています。年間売上は約60億円で、そのうち95％以上をメインである鉄道信号関係が占めています」と、この日お話を聞かせてくださったのは、三工社執行役員・甲府事業所長の長田真一さんです。「当社は東京で創業し、現在、本社は東京渋谷の幡ヶ谷に置いています。しかし敷地が手狭になってきたことから、工場部門として平成2年に甲府市南部工業団地に敷地面積約13,000㎡の甲府事業所を設けました。さらに平成22年には中央市が頭脳産業の集積拠点として整備した山梨ビジネスパーク内において、列車の安全運行のための自動列車停止装置（ATS）のセンサーの役割を果たす『ATS地上子』を専門に製造するテクノセンターの操業を開始しました」。テクノセンター内には製品展示室もあり、展示されている大型のジオラマが三工社の製品の魅力を伝えています。「山梨に製造拠点を設けたことにより、県内の若い世代の雇用が進み社員の年齢層がずいぶん若返りました。また豊かな自然環境の中で社員の親睦を深めるイベントなども開催し、明るい雰囲気の職場環境を作ることができていると感じています」と、人を育て、技を極めていく甲府事業所が創り出す未来に長田さんも期待感を高めています。



時代のニーズを先取りした製品開発への挑戦

「少子高齢化、人口減少などに伴い鉄道を利用する人は減っていくでしょう。そうなると鉄道事業者も省力化に舵を切ってくることが予想されます。その時に私どもが省力化に寄与できる製品を開発し提供していくことが、ひいては社会全体に貢献することにつながると考えています。そのためにAI、IoT、ITなどに対応できる技術者の採用も重要視しています。また製造拠点である山梨では製造業務を担える人材のさらなる育成も進めていく必要があります。当社は現在も機械加工が主流としてあり、また電気電子の技術も必要とする複雑で難しい業態であると言えるかもしれません」。このように社員の専門知識や技術の向上が時代のニーズを先取りする製品を創る上で不可欠である三工社では、すでに20年以上継続している通信教育の受講をはじめとする社内教育制度やポリテクセンターのセミナー受講など、社員のスキルアップを図る機会を多く設けています。「たとえば機械系で入社した社員も10年後には電気系の仕事もできるように育っています。社員一人ひとりがお客様の多様な要望にお応えできる技術者として活躍している、それが当社の強みであり特徴といえるでしょう」。



製造部製造二課
今津 知彦さん



甲府事業所長 品質保証部長
長田 真一さん

先端を追う部分と、歴史ある製品の継承と供給という新旧両方を守るのが三工社の使命

三工社の主軸である鉄道関連製品は、北海道から九州まで日本全域で使われています。「たとえば雪が多い地域や気温が低い所で使用する信号機のガラス面にはヒーターを入れ、雪が降っても信号がしっかり見えるようにするなど、地域の特性に合った製品を製造しています。踏切にある非常ボタンと書かれた『踏切支障報知装置操作器』はみなさんも見たことがあると思いますが、実はこれも当社の製品です。他にも通常みなさんは日常的に目にすることはできない多種多様な当社の製品が陸上運送の最大機関である鉄道の安全確保に貢献しています。時代のニーズを先取りする製品を生み出し続けている一方で、線路のポイントで使用される昔ながらの『転てつ機』など、当社でしか作っていない製品も鉄道業界で必要とされています」。先端を追う部分と歴史ある製品を継続して供給するという両方を守ることが三工社の使命だと長田さんは言います。「鉄道は過去には悲惨な事故もありました。ですが近年はそのような事故もなく、安全かつ安定的に運行ができています。私どもの製品が社会インフラの安全に寄与していると実感でき、とてもやりがいを感じています」と笑顔で話してくれました。どこにでもあるわけではない、特別な役割を果たし社会に貢献する企業がここにあります。









株式会社 三工社

所 在 地：本社 東京都渋谷区幡ヶ谷2-37-6 TEL.03-3377-4131
甲府事業所 山梨県甲府市大津町1262-7 TEL.055-243-5051
テクノセンター 山梨県中央市乙黒107-2 TEL.055-288-0281
事業内容：鉄道及び交通信号保安装置機器製造業

はみだししゃべくり ラジオキックス FM90.9 AM765
6月26日（木） 2025年
放送
YBSラジオ「キックス」内 特別コーナー
「つながるポリテク Make You Happy」
でもご紹介します。

Make You Happy

郡内織物を次世代に引き継ぐ

郡内織物は、山梨県を形成する個性 !!

郡内織物（ぐんないおりもの）は、1000年以上の歴史を持つ伝統的な織物で、間違いなく山梨県の地勢、風土に基づく地場産業です。江戸時代には「甲斐絹（かいき）」と呼ばれる高級絹織物が生産され、羽織の裏地などを盛んに生産しました。また、「郡内縞（ぐんないじま）」と呼ばれる縞模様の織物は、粋な江戸の町人に好まれ、文学作品にも登場しています。tete第7号にご登場いただいた“槇田商店”も、郡内織物の老舗で、時代の変化に対応するための取り組みを紹介させていただきました。今回は、ネクタイを中心に、今の市場に訴求できる商品を提供している“羽田忠織物”にフォーカスします。



100 年企業 HADACHU

“羽田忠織物［HADACHU ORIMONO］”は、1935年現社長の祖母が織物業を始めたところから始まります。その後、社長のお父さんが事業を拡大し、羽田忠の礎を築きます。裏地布の織物から、ネクタイ地の織物業へと変遷しながら、25 年前に現社長 “羽田 正二さん” にバトンタッチしました。社名羽田忠の由来は、お父さんの名前“忠一”から、一文字をとって命名されたそうです。ネクタイ生産の中心は、OEM によるものだったそうですが、槇田商店でもお聞きしましたが、OEM では、発注量の先々が読みにくい、急に発注停止になるなど、取引先の都合に経営を左右されやすいこと、自社名が最終商品に反映されず、社員のモチベーションを維持しにくいなど、ご苦労をされたことと思います。そこで、羽田さんは［HADACHU］ブランドで、自社のデザイン商品を市場に提供するビジネスモデルに取り組みました。その時に大切にしたコンセプトは「自分達は、長年の経験を持つ織手である」ことです。郡内織物らしいネクタイ地で、商品開発をし、他社製品との差別化に努め、独自のネクタイブランドを展開しています。

HADACHU のブランドイメージは大人の遊び心

時代は、良いものを作れば売れる市場ではありません。羽田社長は、バイクや車が好きで、特にクラシックなものに惹かれるそうです。ブランド、ショップ、商品デザインのコーポレートイメージは、その社長の感性に基づくものです。若い頃のデザイナーの方々との交流が下地になっていると教えてくださいました。自分の好きなものを、商品に反映させていくという、まるで永遠の少年のような好奇心や面白がる気持ちが、商品に色濃く出ているように感じます。ネクタイ業界は、クールビズから始まってビジネスカジュアルなど生活様式の変化が、需要の低下を招き、人口減少も相まって決して楽観できる市況ではありません。ネクタイ製品を通して、郡内織物の歴史を引き継ぐために、今後は、女性向けのトラッド系タイなどの商品も開発し、女性消費者から支持されるブランディングに取り組みたいとも仰っていました。

郡内織物の後継者問題

今一番危惧していることは、この地域の後継ぎ問題だと言います。織物業界に限ったことではないかも知れませんが、親族に後継ぎがいない事業者も多く、最盛期に比べてかなり減少している事業者が、さらに廃業をしていくことも予想されています。自動織機が高性能化しても、経験によるノウハウは、製品製造に欠かせないと社長は教えてくれました。職人の技能の断絶は、取り返しのつかない事態を招きます。そうなる前に、民間事業者だけでは対応できない後継者問題を解決するための方策について、行政と共に取り組みたいと切実な想いもお聞かせいただきました。

郡内織物は、歴史ある地場産業ですが、伝統工芸ではありません。事業者は消費者が日常使いの買いたくなる商品を供給し、その企業努力も理解できる健全な地域消費者がいて初めて存続できるマーケットです。事業者、消費者とも時代の変化や要求に対応しながら地場の産業に寄り添うことも、地方の活力を失わないための生き方かも知れません。







CEO 代表取締役社長 羽田 正二 氏



Column 2





【企業PROFILE】
有限会社 羽田忠織物
山梨県富士吉田市上暮地3-7-26

産地でなければ味わえない!!


富士の輝

山梨県は、誰もが葡萄の一大産地としてのイメージを持っています。近年、シャインマスカット出現後、新品種の開発が活発になり、生食用葡萄品種は、すごい勢いで増えています。令和5年の都道府県別生産量ランキングを見ると、1 位山梨県（全国の 25%）、2 位長野県（同 19%）、3 位岡山県（同 10%）で、山梨県は依然として生産量は全国第一位ですが、ここ数年の気候変動は、ブドウ栽培に適していると言われてきた山梨県の気候風土に大きな影響を及ぼし始めています。現実に2024年の猛暑や長雨及び日照不足による影響は、ブドウが色づかないという現象も引き起こしましたし、また、従前はあまり栽培に適していなかった北杜市にも葡萄畑が増えてきていて、葡萄は勝沼という固定概念も崩れつつあります。

葡萄栽培に適した環境は、1. 適度な降水量 2.寒暖差 3.日照時間 4.土壌の排水性と保水性 5.風通しのよさと言われ、勝沼地域はそれらを全て満たしていたことから、一大産地になったと言われています。ブドウ栽培事業者は、今、危機感を持っており、近いうちに長野県に生産量で追い抜かれる日も来るのでないかと危惧しています。

そのような状況下、付加価値の高い葡萄品種を自社開発し、山梨県の葡萄のブランド価値を上げる取り組みをしているのが、志村葡萄研究所です。現社長の志村さんのお父様が、大手ワインメーカーを退職後、自らブドウ栽培を始めたのが当研究所の始まりです。品種改良は早くても結果が出るまでおおよそ4年の歳月を要します。全くものにならない場合も多く、非常にリスクが高い事業です。その取り組みから生まれたのが、“富士の輝”です。ブラックシャインとも言われ、サインシャインレッド、シャインマスカットと合わせ、シャイン3種詰め合わせせは、ブドウの贈答品としては、最も付加価値の高い商品です。高リスク覚悟で、民間ビジネスとして取り組んできた当研究所はリスペクトしてもし切れないくらいすごいことですが、山梨県を彩る強烈な個性とも言える葡萄栽培は、もっと県を挙げて取り組んでも良いのではないかと率直に思います。民間事業者と県行政のより深い連携とブランディングが、山梨県にとって価値ある葡萄産業の持続に欠かせない取り組みだと考えます。

現社長は、全く異業種で販売の仕事に就いていましたが、お父様を継いで新たなビジネス展開に取り組んでいます。全国放送番組に取り上げられたこともあり、当研究所内にある「dolce & caffe Grape Shop cocolo」では、旬のフルーツを使ったパフェなどを提供していますが、95% が県外のお客様だそうです。時間と交通費をかけても、ここに来なければ食べられない、手に入れられない葡萄を買えるお店が山梨にあることって素晴らしいことだと思いませんか。当店では、東京でも葡萄の直売なども行っており、常に完売だそうです。県外者からは垂涎の葡萄を県民は日帰りで堪能することができる幸せをぜひ体感して欲しいと思います。山梨県に生まれ育った方は、桃と葡萄は貰って食べるものという慣習が染みついているように見えますが、それはそれで山梨県の特徴で、素晴らしい地域性とも言えますが、良い商品やサービスは、健全な消費者がいてこそ持続できることも、市場が縮小する地方は考えることも大事ではないでしょうか。


富士の輝を使ったパフェ”極„


春を彩るいちごシリーズ





代表取締役社長
志村 晃生 氏

山梨県で生活する喜び

県外者が描く山梨県のイメージとは。桃や葡萄など果樹栽培、世界的にも評価が上がっているワイン、外国人観光客に人気のある富士山麓・富士五湖観光などを思い浮かべる方が多いかもしれません。観光では味わえない、住んでいるからこそ享受できる山梨県の魅力について、山梨県の個性と言う観点で、その代表的な取組みにフォーカスします。山梨県に生まれ育った方々には、当たり前のことが県外の方から見れば、素晴らしい環境だと言うことをもう一度見直していただければ幸いです。声を大にして自慢するのではなく、さりげない日常として常に生活の中にある山梨県ならではの個性に迫りたいと思います。

Column 1





【企業PROFILE】
株式会社 志村葡萄研究所／
dolce & caffe Grape Shop cocolo
山梨県笛吹市御坂町下黒駒520-1

GO! POLY TECH

そうだ!! ポリテクへ行こう!!

公共職業訓練【ハロートレーニング】のお申し込みは、お近くのハローワークへ!!

ポリテクセンター山梨 訓練課 ☎055-242-3066

見学会や体験講習のお申し込みはお電話で

開講コース・見学会 体験講習・セミナー **募集情報**

募集内容についての詳細はポリテクHPお知らせに掲載しています

各訓練コースの詳細は2025職業訓練コースガイドをご確認ください

近日、募集開始します!

9月開講コース

（導入訓練1か月+専門技術訓練6か月）

IoT機器プロダクト科（企業実習付き）**・金属加工科**

訓練期間 令和7年9月25日㈭～令和8年4月14日㈫
（IoT:令和7年9月25日㈭～令和8年4月7日㈫）

募集期間 **令和7年6月30日㈪～令和7年9月5日㈮**
（応募状況により延長することもあります）

選考日 **令和7年9月16日㈫**



10月開講コース



（専門技術訓練6か月）

機械CAD/NC科・金属加工科・建築CADリフォーム科・電気設備技術科・IoT機器プロダクト科（企業実習付き）

訓練期間 令和7年10月17日㈮～令和8年4月14日㈫
（IoT:令和7年10月17日㈮～令和8年4月7日㈫）

募集期間 **令和7年7月22日㈫～令和7年9月12日㈮**
（応募状況により追加募集することもあります）

選考日 **令和7年9月24日㈬**

締切間近、お急ぎください!

6月開講コース

（導入訓練1か月+専門技術訓練6か月）

機械設計エンジニア科（企業実習付き）**・金属加工科**

訓練期間 令和7年6月24日㈫～令和8年1月16日㈮
（機械設計:令和7年6月24日㈫～令和8年1月6日㈫）

募集締切 **令和7年6月6日㈮** 選考日 **令和7年6月17日㈫**
（応募状況により延長することもあります）

7月開講コース

（専門技術訓練6か月）

機械CAD/NC科・金属加工科・建築CADリフォーム科・電気設備技術科・機械設計エンジニア科（企業実習付き）

訓練期間 令和7年7月17日㈭～令和8年1月16日㈮
（機械設計:令和7年7月17日㈭～令和8年1月6日㈫）

募集締切 **令和7年6月19日㈭** 選考日 **令和7年6月27日㈮**
（応募状況により追加募集することもあります）

訓練コースを理解するための機会

職業訓練コース見学会（全コース）

雇用保険受給資格者の方は、認定期間内の就職活動として認められます

令和7年 6月	2日㈪・ 9日㈪・16日㈪・30日㈪
令和7年 7月	7日㈪・14日㈪・28日㈪
令和7年 8月	4日㈪・18日㈪・25日㈪

【時間】13:30～16:00 【会場】ポリテクセンター山梨
【持ち物】ツバ付き帽子、メモ帳、筆記用具、サンダル不可

職業訓練体験講習

Point!

令和7年6月15日㈰（IoT機器プロダクト科は選択できません）
令和7年8月 3日㈰（機械設計エンジニア科は選択できません）
【時間】9:00～16:00【会場】ポリテクセンター山梨

対象コース	機械CAD/NC科、金属加工科、建築CADリフォーム科、電気設備技術科、機械設計エンジニア科、IoT機器プロダクト科

午前・午後 各1コースを選択し、訓練プログラムの一部を体験できます。
午前又は午後のみの参加も可能!!
【服装・持ち物】体験希望のコースによって変わります。お申し込みの際にご確認ください。



再考 ファスト風土化する日本
～変貌する地方と郊外の未来～
著者：三浦 展 発行：(株)光文社
定価：900円(税別)



知識と教養を深める POLY TECH Library

地方の活力／個性ある地方へ

2004年、著者が上梓した「ファスト風土化する日本」の約20年後の続編。2004年の著作では、全国各地の主要道路の沿道に、大型ショッピングセンターや全国チェーン店が林立し、郊外にロードサイド型商店街の同じ風景が出現することの影響を語っています。地域の気候・風土・歴史に基づく独自の文化が消滅すること、都市型犯罪の郊外化など、著者が危惧した通りのことが現実に起きました。駐車場がない従来の商店街や鉄道駅前などは、軒並みシャッター街になっていきました。大型ショッピングセンターそのものが閉鎖することも多くなってきました。今回の著作では、20年の間に地方に何が起きたのかを、多彩な専門家が事例を基に解説するチャプターと、20年前とは違う今の時代、世相の中で、脱ファスト風土化への取り組みの胎動が始まっている事例を紹介するチャプターなど、ファスト風土化の次に来る地方の姿を考える上で、参考になる構成となっています。

日本中を席巻したファスト風土化の嵐が去り、人口減少がさらに進んだ今日、均一化された地方社会は、今後どう生きるのかを考える、今が大切な局面だと言えるのではないでしょうか。ファスト風土化が進んだ時代に生まれた若者のふるさとの原風景が、均一的、無機的なロードサイドの風景と言うのは、あまりにも悲しいとは思いませんか。

森と暮らす、森に学ぶ

八ヶ岳南麓西井出の森にある“八ヶ岳倶楽部”。県外の観光客のほとんどが立ち寄ると言っても良い観光スポットです。俳優の“故 柳生博”さんが開設した、今年創業36年目を迎える、カフェ・レストラン、ステージ、ギャラリーと八ヶ岳倶楽部の森からなる複合施設です。

柳生さんの八ヶ岳との出会いは、柳生家の家訓である「13歳になったら一人旅をする」による旅先が、八ヶ岳だったことが始まりです。その後、俳優として活躍されるわけですが、東京での暮らしの中で生活のバランスを失い、祖父の教えにより、土に触れる生活をするため、以前一人旅で訪れた八ヶ岳を思い出し家族で二拠点生活を始めたそうです。八ヶ岳での生活を続ける中、八ヶ岳倶楽部の構想が浮かび、自然との接点の場として、訪れる人にここでゆったりとした時間を過ごしてほしいという想いで、八ヶ岳倶楽部は成長してきました。特に、“八ヶ岳倶楽部の森”は、柳生博さんが黙々とこの土地の植生に合った広葉樹などを植え続け、下草を刈り、枝打ちをしながら森作りをしてきました。その森が、回遊できる散策路になっていて、四季の変化を見せてくれる、木々たち、山林に生える草花、野鳥や野生動物など、多様な生態系がそこにはあります。清廉な空気の中で、お茶を飲みながらのんびり過ごすひと時は、日々の生活に疲れる現代、何にも変え難い大切な時間となります。

八ヶ岳倶楽部 第２世代へ

今、柳生博さんの次男柳生宗助さんは（有）八ヶ岳プランニング代表取締役社長兼務で、東京の会社に勤務しながら月に2回程度八ヶ岳に来る生活を送っています。八ヶ岳倶楽部の現場を実質切り盛りするのは義娘で専務取締役の柳生直子さんと取締役の山田幸司さん。今回はこのお二人にお話を伺いました。直子さんは、子供の頃から、自然の中で、草花や生き物に触れながら転げまわって育ったそうです。東京で仕事をしながら、八ヶ岳倶楽部のスタッフとして土日限定で楽しく働いていたそうですが、今ではこの施設を受け継いで運営する立場になりました。そこには、様々なストーリーもありました。

緑溢れる森に囲まれた建物



ここで全ては紹介しきれませんが、森を愛する気持ち、柳生博さんが育んだ八ヶ岳倶楽部の森を未来に引き継ぐという想いは、強く心に残りました。山田幸司さんは、大学で全く異なった専攻だったにも関わらず、以前から強い関心があった環境アセスメントに関わりたくなり、知床での自然保全の仕事をしたそうです。そこで、八ヶ岳で自然と共に生きる俳優（柳生博さんのこと）がいることを知り、八ヶ岳倶楽部のスタッフに応募して、現在は、この地に居を構え、八ヶ岳の自然と共に生きていくことになったそうです。八ヶ岳倶楽部は、こういった自然と共に生きることを目指した方々によって運営されているのです。

また、スタッフの方々についても直子さんは感謝を忘れません。「森の近くに住んでいると、自然の生態系の中には、大きな木もあれば、小さな木もあり、春しか咲かない草花や秋に咲く花、様々な植物、昆虫や微生物やその他生き物たちがともに絶妙な自然の調和のバランスの中で暮らしているのを感じます。八ヶ岳倶楽部の経営も、誰かが誰かみたいにならなければいけない！とかではなくて、それぞれの長所や個性を活かして、凸凹ながらも、みんなで補い合いながらやっていくことで、それぞれが精一杯それぞれで在ることで、そこに調和が生まれてくるのではないか、絶妙なバランスが生まれてくるのではないかと私は思い、そんなチームを目指しています。縁あって、こうして八ヶ岳倶楽部で働いてくれている仲間は、倶楽部の宝だと思っています」

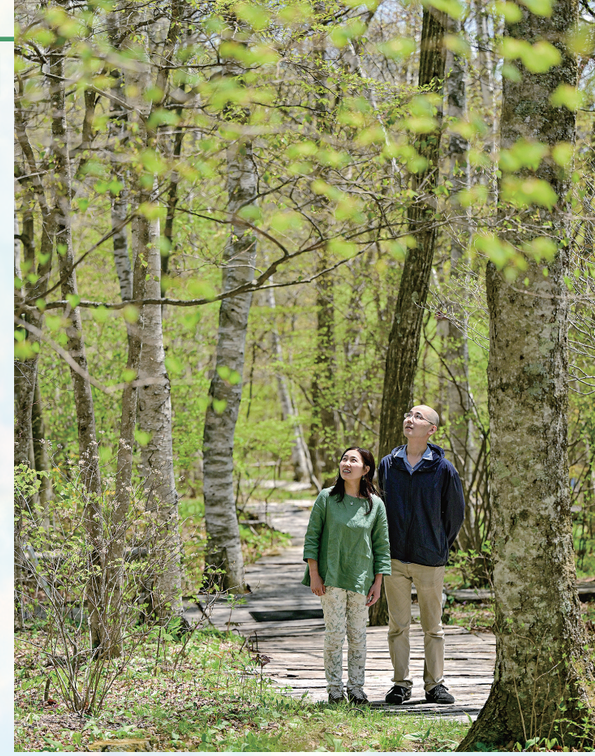


この森の生きもの達と共に健やかに。関わるすべての人々を笑顔に。人と自然の仲のいい風景

柳生博さんがお亡くなりになった後この八ヶ岳倶楽部をどう運営していくか、継続していくか、ある意味、柳生博さんに依存していた感がある同施設を運営していくのは、大変なご苦労があったことと思います。直子さんは、2021年には森林セラピストの資格も取り、「子ども林ツアー」「森の癒しのリトリート」など、利用者の方々に森の素晴らしさを知って頂くための機会提供事業を行ってきました。

そして、この八ヶ岳倶楽部の森を未来に繋ぐため、広く森の支援を募る「八ヶ岳倶楽部の森サポーターズ」に昨年より取り組んでいます。今後も、森の空気感を、ここまでお出でいただけない方々、入院中の方々、介護支援施設の方々などに向けて、ネットで風景、風の音、鳥のさえずり、森の香りなどをリアルにお届けすること（オンラインリトリート）にチャレンジしたいとも仰っていました。また、「tete第8号」に掲載させていただいた「萌木の村」にある「ナチュラルガーデンズMOEGI」も環境省から認定されている生物多様性保全に取り組む区域「自然共生サイト（OECM）」への認定も目指しています。

「確かな未来は、懐かしい風景の中にある」という柳生博さんの遺志を大事にしながら、八ヶ岳倶楽部の新しいページを描くことに取り組むスタッフみなさんの熱意を感じる取材でした。山梨県に住む者として感じる幸せは、観光ではなかなか味わえない八ヶ岳倶楽部の森の四季折々の風景をいつでも体感できることです。県外の方から見れば本当に贅沢な空間が身近にあることって、素敵だと思いませんか。



新緑の森の庭を歩く、柳生直子さんと山田幸司さん



魅力的な雑貨、作家物の販売スペース

Column 3





【企業PROFILE】
有限会社 八ヶ岳プランニング
八ヶ岳倶楽部
山梨県北杜市大泉町西井出
8240-2594

FREE MAGAZINE tete
13号　2025.6.1 発行　独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　山梨支部　ポリテクセンター山梨（山梨職業能力開発促進センター）　〒400-0854 山梨県甲府市中小河原町403-1　TEL.055-242-3066

地域の風景としての古民家

that's 古民家 renovation

古民家旧鈴村邸 愛妻家珈琲



総務省統計局「令和5年住宅・土地統計調査」によれば、山梨県の空き家率は、全国でワースト3位と依然と大きな課題となっています。一般家屋、大型建造物の新築なども、地域経済にとって重要ですが、空き家が廃屋化していく、空き地が目立つなどの状況は、その地域を荒廃させます。持続できる地域社会を目指すうえで、空き家の再利用に取り組み、新たな役割を生み出すことは、地域社会にとって大切なことです。このシリーズでは、古民家をリノベーションし、地域コミュニティの新たな拠点となった建築物のオーナー、リノベーションの専門家、再利用の担い手の取り組みに迫ります。

第1回目は、「旧鈴村邸」。甲府駅南口からほど近い場所に、趣のあるリノベーション古民家があります。オーナーの 飯田 千春さんの生まれ育った生家です。現在は、千葉にお住いの飯田さんは、この思い出が詰まったこの家を何とか残せないかと思い悩んでいた時に、不動産業の方の紹介で、以前にteteにご登場いただいたことのある（株）SHOEIの大原さんと出会います。空き家プロジェクトに並々ならぬ熱意を持って取り組んでいる大原社長との出会いで、鈴村邸再生が始まりました。オーナーとしては、福祉事業で活用できないか模索している中、古民家利活用募集に現在営業中の「愛妻家珈琲」の店主である 浅川 元寿さんが応募し、オーナー、リノベーション施工者、不動産管理者、活用事業者の偶然の出会いが「旧鈴村邸」の再生に繋がります。

「旧鈴村邸」は、「愛妻家珈琲」のカフェスペースと「ちはるばぁばの部屋」として、地域の住民のコミュニティの場、学生の社会活動のスペースとして利用されています。飯田オーナーが仰るには、実際に運営を始めてみると、予想もしなかった出会いや、活動の場として「旧鈴村邸」が地域のお役に立てることがわかったそうです。今後も、建物を後世に残すだけではなく、地域の生活・文化の拠点としての役割を担って行ってくれれば嬉しいとも仰っていました。

「愛妻家珈琲」を営む 浅川さんは、渋谷区恵比寿発祥の猿田彦珈琲にて創業時から10年ほど勤務。もう一度原点に返り、お客さんが喜ぶ顔が見られるカフェを営みたいと、出身地である山梨県に帰 って創業準備をしていく中で、「旧鈴村邸」に出会ったそうです。「ささやかなコーヒー、特別な時間。」を大切にした「愛妻家珈琲」でのカフェ時間は、リノベーションの建物に包まれ、穏やかなひと時となります。本当に特別な時間が流れます。



今後は、フードメニューも充実させ、地域から愛されるお店を目指したいと、どこまでも自然体でお話くださった店主さんでした。

リノベーション物件は、どんなに素晴らしい建築物でも、新たに持続できる役割がなければ、また空き家になります。当然維持管理費はかかり、ボランティアで持続することは不可能です。古民家再生で重要なことは、素敵な器とその器を活かすコンテンツです。その組み合わせが、再生した物件を次の世代に残していけるのです。「旧鈴村邸」は、関係者の意思や想いが見事に結実し、その素敵な佇まいを新たな地域の拠点として見せてくれているのだと思います。もう一つ大切なことは、その新たな生命を宿した物件を、地域の方々が一緒になって応援し支え、次世代に残したいと言う想いも重要だと消費者の一人としてつくづく感じる取材でした。







愛妻家珈琲

甲府市丸の内2丁目7−14
旧鈴村邸

【電話番号】055-269-7123
【営業時間】9:30~18:30
(18:30 L.O.)

【 定休日 】
日・月曜日
定休日は変更となる場合がございますので、ご来店前にご確認ください。

@AISAIKACOFFEE



teteスマホ版

ポリテクHP

Free magazine tete
Poly tech staff /
Yoshihiko Naganuma
Tatsuhiko Shiota
Akihiro Nagai
Akihiro Sendo
Ami Iwama

Printing and Design / Sannichi Printing
Editorial Design / Soh Aoyagi /Daiki Amemiya / Yuki Okubo/
Madoka Hatta
Camera / Syuji Furuya
Writing / Yoshihiko Naganuma / Shiori Oguri / Chiaki Koshu
Model / Sekenshirazu / Mika Miura

FSC ミックス紙 FSC® C023103
VEGETABLE OIL INK
古紙パルプを 60%以上配合したマットコート紙を使用しています。